

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	太陽光発電システム設置補助件数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	太陽光発電システム設置補助事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	設備設置者	手段 (どのように)	設置費の一部を補助する
	目的 (どうしたいのか)	太陽光発電システムを普及させることで、節電や地球温暖化対策への町民の意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	10	基/年
前年度実績	太陽光発電設備: 予算10件、実績5件 蓄電池: 予算3件、実績5件 HEMS: 予算3件、実績4件	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S: これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C: これまでの実績より後退
		A: これまでの実績に上乘せ	D: これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B: これまでの実績を維持	
	コメント		
平成21年度より補助制度を開始し、令和3年度末までに167件へ補助を実施した 平成29年度に策定した「中井町地球温暖化対策実行計画」にて、目標値を300件と定めており、今後も事業を継続していく			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
太陽光発電の固定価格での買取期間が10年間と定められており、買取満了時期に近い人の蓄電池購入なども増えている。令和4年度より蓄電池及びHEMSへの補助も5件に増やし、創エネ、蓄エネ、省エネの一体とした普及を図っていく。現在、半導体不足やコロナの影響により生産が遅延しているため設置件数への影響が懸念される。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	太陽光発電システムを導入するメリットは、環境に良いクリーンなエネルギーであり、電気料金を軽減できるという効果があるが、一方、廃棄時の補助金について何も見えないなどデメリットも説明し、PR活動を行う必要がある。中井町は緑を基本とした施策がとても重要であり、林を切り開いて設置するなど自然環境や景観を破壊してまで行うメリットはない。個人住宅への補助のみであれば賛成。電力需要切迫などを受けて節電を呼び掛けるなど急激な変化がみられるので継続する。	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	エコドライブ啓発活動	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	総務課
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	エコドライブ推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民・事業者	手段 (どのように)	エコドライブの啓発
	目的 (どうしたいのか)	エコドライブを推進することで車両から排出されるCO2を削減し、地球温暖化対策を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	1 回/年
前年度実績	公用車にエコドライブ推進の啓発テープを貼って周知を図っている。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	D	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
神奈川県等から配布されるチラシ等の窓口配布や環境省の「エコドライブ10のすすめ」リーフレットを窓口に掲示し周知を図った。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
ここ数年は、コロナ過で非接触型の啓発だったが、イベント等も再開し始めているので町のイベントや交通安全運動などと連携し啓発をしていく。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B - 3	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ - 1 拡充すべき事業である ├ - 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ - 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	自動車メーカーも含め、普久啓発事業は盛んであり、町が取り組まなくても良い。低公害車の普及にシフト変更した方が良い。あまり必要性を感じないが年に一度の啓発イベントくらいであれば、あえて廃止を望むほどでもない。中井町内の事業所と協力して何らかのメリット(動く広告塔など)を検討してはどうか。啓発活動に参加することで、何らかのメリットがあれば参加へのモチベーションアップ、活性化につながると思う。また、エコドライブ啓発活動の表彰制度を取り入れてはどうか。	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	環境家計簿参加者数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	環境家計簿推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	環境家計簿を普及させる
	目的 (どうしたいのか)	家庭において環境家計簿を普及させることで、町民の地球温暖化及び環境保全への意識の向上を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	10 人/年
前年度実績	太陽光発電システム等設置費補助金受給者5名 住宅用蓄電池設置費補助金受給者5名 HEMS設置補助金4名

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
太陽光発電システム等設置費補助金、住宅用蓄電池設置費補助金及びHEMS設置補助金の要件として1年間環境家計簿の提出が義務付けられており、実績値は補助金受給者数となっている。1人で3種の補助金を受けている者もいるため、令和3年度は9件となっている			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
燃料等が高騰するなか、経済面でのメリットも広報し、太陽光発電システム等設置者以外へも広報やホームページ等を活用し普及啓発を図り、省エネ等環境について考えるきっかけの一つとしたい。 これまでに蓄積されたデータについて分析、検証し、事業に活用することも検討していく必要がある			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B-2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>環境家計簿を知らない、効果がわからない、パソコンが不慣れ、継続するのが難しい、無関心等課題が多くあると思うが、なぜ普及しないのか、普及するための課題を明確にし取り組む必要がある。解決の一例として、各種ポイント制度と連携し達成感につなげたり、スマホアプリで簡単に入力できるなど取り組みやすくする等検討をしてはどうか。国が導入しようとしている節電ポイントにも注視していく。前年度の実績を維持しているが、参加者の声はどんなものなのか、義務ではなくても参加したいと思う内容なのか検証してみる。いろいろ物価の高騰等により関心も高いので良いきっかけになるため広報やホームページ掲載によりPRに努める。</p>	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	温室効果ガス排出量の削減量	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	総務課
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	中井町地球温暖化対策推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所、行政	手段 (どのように)	それぞれが主体的に地球温暖化防止に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	温室効果ガス排出量を削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	26 %	2030年度で2013年度比
前年度実績	公共施設及び公用車の使用による二酸化炭素排出量 1,075,600kg/Co ₂ /年 令和2年度:前年度比 -28.53% 平成25年度比 -16.81% ※今回減少量は電気の二酸化炭素排出係数の変動によるものが大きい。 自治体排出カルテより CO2排出量 平成17年度 217(千t-CO2) 令和元年度 167(千t-CO2)	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
政府は地球温暖化対策計画において、令和12年度に平成25年度比43%の削減として目標設定に変更しました。それに伴い町でも今後目標値を改定していく予定である。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
公共施設等では、二酸化炭素の排出量は減少傾向にある。 データが古くなってしまうが当面は、環境省の自治体排出量カルテ等を使用し分析をしながら普及啓発を行っていく。 今年度、2市8町でプラごみゼロ宣言をしており、今後プラごみ削減の啓発も行っていく。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	プラごみの削減は、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献することができるので継続する。民間、自治体の意識向上のため、継続する。家庭でできる温室効果ガスを減らすための取り組みとして、二酸化炭素排出量を削減する際には電気、ガソリン、ガスの3つの使い方を見直すことが効果的である。電気は、節電を意識する。ガソリンは、車の使い方を見直す。ガスは、お湯を沸かす量を減らしたり、ガスコンロの使い方を見直す。これらをモニタリングし数値化することで、温室効果ガス排出量の削減量を把握することができる。モニタリング方法については、町民の協力なしではできないため、何らかのメリットを検討してはどうか。町民がどのように取り組めばよいのか分かりにくい。	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	食品ロス対策	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	教育課
環境像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事業名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	それぞれが主体的に食品ロス対策に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	食品ロスを削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	食品ロス削減のための啓発
前年度実績	境地区と中村地区の2地区において、家庭形可燃ごみのサンプルを採取し、調査を行ったところ、全体での食ロスの割合は14.1%であった。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
令和3年度は松田町と大井町の3町で食品ロス実態調査を行った。データを蓄積していくためにも継続して調査を行う必要がある。学校給食残渣を飼料として養鶏場は無償譲渡し、ごみの減量化を図っている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
今回の調査では、町内で見ると1日1人当たり75.7gの食品ロスが排出されているという結果であった。これは全国的な家庭系食品ロスの数字と比較すると、大きい数字となっているため、より食品ロス削減の啓発を行う必要がある。調査を行う中で、可燃ごみの中に資源物や不燃ごみの混入が見受けられたので、分別の徹底についても周知を行う必要がある。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	B-2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>近隣の町と一緒に実態調査ができたのはよかった。今後も継続しつつより一層の啓発も行いたい。コンポスト等購入への補助も検討してほしい。食ロス調査結果を分析して効果的な啓発を行う。可燃ごみのうち食品ロスの減少を図ることによりごみの減少もでき、清掃工場も長持ちすることができるため継続することを望む。具体的、実現的な施策を、多角的に考えることが急務かと思う。現在、中井町ではフードドライブ制度で食品の受付を行っていないが、検討をしてはどうか。コロナ禍で生活に困窮している方々への支援として、家庭で余っている食品を持ち寄り、それらを必要としている方(食品を必要としている個人、地域の福祉施設・団体、フードバンク団体等)に引き渡す活動を行うことで食品ロスの削減につながると思う。その食品量を把握することが、食品ロス削減のための啓発につながる。</p>	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	事業系ごみ対策	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事業名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	事業所	手段 (どのように)	ごみ排出状況の確認及び減量化の啓発
	目的 (どうしたいのか)	事業系ごみの減量		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	排出状況の確認、減量化・資源化の啓発
前年度実績	未実施

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
町内小中学校では、ペットボトルキャップ回収、インクカートリッジ回収、書道紙リサイクルプロジェクト、給食の牛乳パック回収などのごみの減量化・分別化やリサイクルの推進、節電対策などの環境活動に取り組んでいる。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
ごみの減量化は地球温暖化や焼却施設の延命化に効果的な事業であり、町の人口が減少している中、事業所における減量は効果が高いと考えられる 事業者から排出されるごみの実態を把握できていなかったが、令和4年度より一般廃棄物収集業許可事業所に事業所ごとではないが、搬出量を提出するよう改善した。今後はその数値を使い検証していく。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である <ul style="list-style-type: none"> — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	<p>以前から比較すると良い方に行きそうですので引き続いて改善を進める。排出量の把握に向けて一歩進んでよかった。今年度は検証結果を実績として出せるようにする。事業系廃棄物はごみステーションに出すことができないため、足柄東部清掃組合に直接搬入するか、町の一般廃棄物収集業許可を有する事業所と契約をすることになっている。この制度を活用して、産業廃棄物以外の一般廃棄物を定期的に管理することで、ごみ排出状況の確認及び減量化の啓発につなげることができる。減量化のメリットである企業のイメージ向上、従業員の意識啓発、地球環境の保全、コスト削減につながることを強調し、減量化に向けての行動は、方針、体制、現状把握、計画、実行、評価、改善を繰り返し実行し、その成果を表彰する制度を設けてはどうか。</p>

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	不法投棄件数、量	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事業名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内全域	手段 (どのように)	パトロールや監視カメラの設置、不法投棄物の早期回収により不法投棄されない環境づくり
	目的 (どうしたいのか)	不法投棄ゼロ		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	不法投棄ゼロ
前年度実績	月に6回不法投棄のパトロールを行っている。不法投棄の回収量は、2430kg

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		不法投棄パトロールや清掃ボランティアによる活動、また、看板や監視カメラの設置等により不法投棄の量は減少してきているが、近年は建設廃材などの事業系廃棄物が多い傾向にある
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
地域ぐるみの監視や警察等関係機関との連携をしながら、引き続き不法投棄ゼロを目指して事業を推進していく。建築廃材やステーションに出せないごみなどを道路わきにあるごみステーションへ通りがかりに捨てられてしまうことも増えてきている。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>なくすことは難しいと思いますが、継続して取り組むことが必要。不法投棄は減少傾向がみられるようだが捨られるものや捨て方が悪質になってきているので引き続きパトロール等に努める。月6回のパトロールは決して少なくないのではと思うが、それでも不法投棄ゼロには程遠い。町民による投棄でないケースも踏まえて近隣地域との連携を強化したい。昨年に引き続き、建築廃材などの事業系廃棄物が不法投棄されるケースが減らず、増えてきている傾向にあるようだが、不法投棄されやすい場所の環境を現状把握、要因解析、改善して不法投棄されにくい環境づくりに注力する必要がある。具体的には、地域住民と連携した地域美化活動の強化、環境監視(環境パトロール)活動や現場での即応体制の強化、運搬車両への不法投棄撲滅ステッカー貼り付け等、協力者、協力団体に何らかのメリットを検討してはどうか。</p>	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	生態系調査実施	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事業名	生態系調査実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	動植物	手段 (どのように)	定期的な調査の実施
	目的 (どうしたいのか)	調査結果を、町の資源として環境学習や観光等に活用するとともに、生態系保全の仕組みを構築する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	定期的な調査、生態系保全の仕組みづくり
前年度実績	副読本を300冊増刷し、こども園や子育て支援センター、木の花保育園へ配布した。 一般向けには、令和3年度は4冊を販売した。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	C	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
中井町の生態系について一人でも多くの方に周知するために平成30年度に副読本を増刷し、引き続き販売をしている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
平成23～28年度にて町内全域の調査が完了したが、今後は生態系の変化を把握するため計画的に調査していく必要がある			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	B - 1	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	町の自然をアピールするため、確認されている希少種の現状を把握し、対策をとるべき種がないかを把握するための継続調査の必要性が高まっている。生態系調査結果を精査し、生態系保全の取り組みに役立ter。「生態系保全の仕組みを構築する」は、人間が将来にわたって持続可能な自然環境を維持していくことであり、適切に保全されなければならない。そこで、環境破壊につながるような要因を取り除き、予防策を取る必要がある。予防策としては、地球温暖化による異常気象や健康被害をなくすために、二酸化炭素排出量の削減や環境に優しい物を選ぶ、ゴミを減らす、環境保護団体を支援するなどの活動に心がけることも生態系を守ることに繋がると思う。	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	森林等保全事業	担当課名	産業振興課
		関係課名	環境上下水道課
環境像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事業名	森林等保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内の森林	手段 (どのように)	国の水源環境譲与税や県の水源環境税の活用、また、日本の竹ファンクラブ等団体の活動により
	目的 (どうしたいのか)	里山の自然環境を地域資源として後世に引き継ぐために、森林の維持保全を継続していく		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	森林譲与税の状況を踏まえた事業計画の作成、事業の実施
前年度実績	令和3年度森林環境譲与税譲与金(1,204,000円)→積立 かながわトラストみどり財団による中央公園内の竹林整備を実施 令和3年度水源の森林づくり事業 鴨沢地区 30.99ha

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
神奈川県水源環境保全再生計画に基づき水源林整備を進めており令和3年度にて第3期5か年計画が終了し、最終の第4期では古怒田地区85haを整備する予定である 森林環境譲与税譲与金は、将来の事業展開に備えて積立			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
水源の森林づくり事業は進捗しているが、事業の期間が令和8年度までであり整備後の管理が課題となっている。 日本の竹ファンクラブや里山研究会等による森林整備活動は継続的に実施されているがエリアは限定されており、整備した森林を維持するための体制づくりは重要となる。 町内の森林は全て民有林であり、森林所有者の協力が不可欠となる。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	林業が注目されている今町の森林保全にもそれと結び付けて発展させる。整備後の管理が課題とあるのは、この事業の根本的な問題であり、どのように対応するのか具体的に構築する時である。日本の竹ファンクラブや里山研究会の協力を得て継続していく。森林保護・森林保全のため、ボランティア活動に参加する仕組みを作る。森の手入れを行ったり、農山部と都市それぞれの住民の交流を後押しするなど、さまざまな取り組みがある。一人ひとりが地球環境に興味を持ち、楽しみながら森づくりができるボランティア活動は、今後更なる発展が期待される。森林保全活動の取り組みとして、間伐材を使用したオリジナルグッズを作成し、販促グッズやノベルティグッズとして活用する。	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	荒廃農地等活用事業	担当課名	産業振興課
		関係課名	
環境像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事業名	荒廃農地等活用事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	荒廃・遊休農地等	手段 (どのように)	年間を通して農作物の収穫体験を実施し、中井町の農業をPRする。
	目的 (どうしたいのか)	年間を通して農作物の収穫体験を実施し、中井町の農業をPRする。		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	荒廃農地の実態把握、荒廃農地別の活用計画の検討、荒廃農地別の活用計画の実施
前年度実績	毎年、耕作放棄地等を活用した農作物収穫体験事業を実施(新型コロナウイルス感染症の影響で規模縮小) 農業の担い手不足や高齢化により、荒廃農地は増加傾向にある。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	C	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
新型コロナウイルス感染症の影響により、農産物収穫体験事業の規模を縮小した。(募集人数の減) 以前から行われてきた荒廃農地対策を含む農業関係者との意見交換の場は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止されている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
農作物収穫体験事業に協力していただける方の確保が難しくつつある。(米や野菜等の栽培管理者) JAや農業アカデミーと連携して新規就農者等の受け入れを促進しているが、それ以上に担い手不足や高齢化による影響が大きく荒廃農地の解消は難しい状況である。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B-2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>コロナ禍でも、できることを工夫をして実行する。体験事業の継続が難しい状況なので、オーガニックな社会への改革を目指したかたちなど、少し違った発想で町の「農」について発信・啓発をする。荒廃農地等を有効活用できる団体等を育成する。荒廃農地でも再生利用可能な荒廃農地と再生利用が困難と見込まれる荒廃農地に分けて、それがどのくらいの割合なのかによって、優先順位を決めて取り組む。現状の荒廃農地マップを作成し、農地集積・集約化を重点に置いた農地集積・集約マップに展開する。農業生産基盤や農業用ハウスや簡易トイレ等の設置など農業周辺環境の整備し、新規後継者が参入しやすい魅力ある農業に構築する。</p>	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	河川清掃実施範囲	担当課名	まち整備課
		関係課名	環境上下水道課
環境像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事業名	水辺保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して地域の河川環境の保全に取り組むことによって、町の貴重な財産である水環境を保全し、町民が親しむことのできる清潔な環境を維持することを目的とする		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	1年あたりの清掃を行った河川延長を現状と同等以上とする
前年度実績	中村川及び藤沢川に接する自治会等の6団体が12,920㎡を年2回草刈り(清掃活動)を実施した。河川管理者より請負代金が支払われる。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
河川管理者は必要最低限の草刈りとする方針。当事業が河川的美観を保つ一役を担っている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
団体構成員の減少、高齢化が進んでいる。当該事業の中止も相談しているとのこと。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>河川の清掃活動を実施してくれる町民の協力者の減少がみられるようだが事業の縮小はやむえないが継続してく。高齢化等で事業の継続が難しい状況下草刈の人員確保について改めてアイデアが必要。河川清掃は河川環境の保全に取り組む事業として重要な事業であり、実施方法を見直し継続的に実施できるよう改善すべきである。河川清掃は自治会単位で実施しているようで、団体構成員の減少、高齢化問題の解決策が難しい現状であるようだ。自治会で解決できない問題は、近隣の自治会の協力を得てマンパワー不足を解決することができないか検討する。県補助金が業者委託でも可能であれば、検討しても良いが、草刈りの時期は、美観維持と生物多様性の両方に配慮した時期とする。</p>	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	生活排水処理率	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事業名	生活排水処理率向上事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	みなし浄化槽(単独処理浄化槽)等	手段 (どのように)	広報啓発や戸別訪問により下水道区域は下水道に接続、補助事業を有効活用し浄化槽区域は合併処理浄化槽に転換
	目的 (どうしたいのか)	トイレ以外はたれ流しのみなし浄化槽等を無くし、下水道接続+合併処理浄化槽を100%にして、快適な生活環境への改善と公共用水域の水質保全を図る。		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	100%(2026年度)
前年度実績	転換補助3件、全て7人槽。 下水接続率、2,004戸/2,534戸=79.1%、0.9ポイント上昇 浄化槽区域の合併処理浄化槽、278戸/770戸=36.1%、0.7ポイント上昇

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	A	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
少しではあるが上昇している。ただ、下水道区域の未接続は530戸、浄化槽区域の単独処理浄化槽等は492戸もあり、今のペースだと100年以上もかかってしまう。国からは令和8年度までに概成(95%)するよう、アクションプランの見直しを指導されている。計算すると、年に43基も転換しないと達成できない。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
町の合併処理浄化槽への転換の補助金の増額分(付帯設備=配管費用)は10万円ちょっとだが、国は30万円を上限としている。国と同じにするか、今年度要綱改正を検討する。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	目標に対して、実績がかなり低い。この要因は何なのか検証する。工事に係る費用負担の問題などから、生活雑排水を適正処理する目的のために、公共下水道への接続や合併処理浄化槽へ転換しようとする意識が働きにくいのではないのか。この課題を解決しない限り解決できないようであるが、補助金にも限度があり難しい問題である。その他の要因として、地理的な地域性があるのか。下水道未接続、単独浄化槽マップを作成し要因分析に役立てられないか検討する。生活排水処理には、多額の費用が掛かるので補助金の増額などで少しでも目標達成に近づけることを目指す。水質保全という視点ではもちろん事業は継続すべき下水道や浄化槽というハードの充実、水を大切にすると意識を育むことと相反するので、個人的に促進への関心が持てない。環境中に流してまずいものを作らない買わない使わないことが大事

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	工場排水調査件数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事業名	工場排水調査事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内事業所	手段 (どのように)	鉱油類、プラント、コーティング業、食品業の下水道に未接続の事業所について、水質汚濁防止法に基づく環境基準での排水検査を実施する
	目的 (どうしたいのか)	油・塩基系溶剤などを使用している事業所の調査を行うことにより、河川への排水の安全を確認し、良好な水環境を保全する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	年3事業所以上(県との連携分を含む)
前年度実績	3事業所の排水について検査を実施した

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
対象となる11事業所のうち毎年3事業所で検査を実施している 事業所を原因とした水質事故は平成26、28年度に各1件発生しているが、近年は発生していない。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
神奈川県で実施する事業所の排水検査との連携も考えていく 対象11事業所に対し毎年3事業所で実施しており、一事業所当たり約4年に1度の検査となっている 事業所の自主検査など対策の強化の検討も必要となる			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	工場が行うべき環境対策(水環境を保全)は、長い目で見て考えていかなければならない。一時的に何とかしようとするのではなく、定期的に見直したり長期的な計画を立てたりすることが重要である。また、地域の人や行政とのコミュニケーション・協力も大切なポイントである。そのためにも事業所への立ち入り検査時は、行政、地域住民、事業所が一体となって活動すべきである。また、環境対策に詳しい有識者の参加があるとよい。検査結果情報は事前に確認できるような配慮が必要である。検査情報としては、水質汚染防止、大気汚染防止、保全管理等があり、何を問題視しているのか・どのようなところに不安を抱いているのかも把握しやすくなる。工場排水が河川へ流れ込むと重大な事例となるので検査の継続をしていく。

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	町内一斉清掃参加人数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	まち整備課
環境像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事業名	美化活動支援事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して町の環境保全に取り組むことによって、清潔な環境を維持することを目的とする		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	現状を維持する(2017年4,426人)
前年度実績	令和3年度は、コロナのため秋は中止とした。春やらなかった自治会は3自治会。 参加者数:1,875名 可燃:6,180kg 不燃:160kg 幹線町道に接する部分の草刈(清掃)活動を8自治会が年2回実施した 町より報奨金を支払いした。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
町内一斉清掃に合わせて、道路の草刈りや、河川の整備を行っている。草刈作業等の実施有無を明確にするため、申出書の提出を依頼した。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
団体構成員の減少、高齢化が進んでいる。当該事業の中止も相談しているとのこと。参加者数も毎年若干減少傾向にあり、人口や自治会加入率が減少傾向の中、一斉清掃を実施することで町の美化に加え、美化意識の向上や不法投棄されない環境づくりに繋がることから、更なる事業所や団体の活動を促すための啓発を継続する。 町と町民が主体性を持って清潔な環境維持に取り組むことが重要であり、継続した事業実施が必要である。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	長期にわたり、町民が一丸となり実施してきた事業であり参加者の減少や高齢化が進んでいるが、新しい取り組みなど実施方法を見直し継続的に実施できるよう改善すべきである。マンパワー不足に対しては、様々な世代が清掃活動に関わっていくようなイベント的な取り組みを検討する。元気な高齢者にも活躍の場として参加につなげる。企業や学校等に対し、社会貢献活動としての清掃への参加を呼びかける。モチベーションの向上に対しては、表彰制度等のメリットを検討する。	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	環境展等開催数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事業名	環境展等実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	環境に関して学び、考える機会を提供する
	目的 (どうしたいのか)	環境への意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	年2回以上
前年度実績	環境展は、行うことができなかったが広報で食ロスをテーマとし周知を行った。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	D	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
コロナの影響で、美・緑なかいフェスティバル及び環境展は中止となった。 環境については、意識づけのため繰り返し発信していく必要がある。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
環境月間やフェスティバルに合わせて事業を実施していたが、イベントの自粛が続く中、県や関係団体等との連携をとり、啓発の手段や実施時期などを再検討していく必要がある。 今年度、2市8町でプラごみゼロ宣言を行ったが、その中で小学生への環境イベントも予定されているのでそちらの方でも周知を図っていきたい。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	B-2	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	担当課では難しいと思うので、郷土資料館に非常勤特別職を配置、そのノウハウを全庁的なイベントに活用するなどの、町として思い切った人材配置を行わないと難しい。人の集まる大きなイベントにこだわらず地道でごく小規模な展示でも積極的に企画・実行すべき。小学校で環境イベントを予定しているようだが、環境PRビデオ(15~30分程度)を作成し、中井町と関わりのある施設、団体(公共施設、自治会、事業所、等)に配布したり、町民が集まる公共施設や中井中央公園のcaféで常時放映したりして環境への意識の高揚を図っていく。	

令和 3 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和4年6月13日
二次評価 令和4年7月14日

項目	自然観察会開催数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	生涯学習課
環境像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事業名	自然観察会実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	自然観察会を実施する。
	目的 (どうしたいのか)	里山や水辺を中心とした動植物の生態系などを町民等に知っていただき、町の自然環境の保全等に積極的に取り組んでいただく。 特に子供達に対しては、自然の中で動植物と触れ合う機会を提供するとともに、町の特徴の一つである自然の豊かさや素晴らしさを伝え、将来の環境教育の担い手となるような人材育成を図る。		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	年5回以上(関係団体等との連携強化)
前年度実績	新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年度に続き令和3年度も全ての事業を中止とした。 【令和元年度】・町子ども会主催(町から活動費補助金10万円を交付)による生物多様性ハイク(66名参加)や巖島湿生公園自然体験活動(年2回:夏24名参加、春41名参加)の実施など、親子等がふれあう場(観察、体験)を提供し、延べ131名(R1年度は199名)が参加し自然と触れ合った。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	D	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
新型コロナウイルス感染拡大の影響により全ての事業が中止となってしまったが、生物多様性ハイクについては、子ども会役員により、毎年観察場所が検討されるなど、多くの町民(特に子供たち)にとって新たな発見の機会、貴重な体験の場となっている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
・中井町は住んでいれば自然と十分触れ合えると思われがちだが、ネイチャーゲーム等を体験し普段とは違った目線で自然を見て触れることで、今まで見えなかった自然が発見できること、また希少な生物と出会いの場となることを観察会で知っていただくことが大切であり、そのためには事業に参加をしていただくことが第一歩であると考えている。 コロナ禍で事業の実施が困難ではあるが、コロナ収束後は更なる参加者の増加と事業の推進が図られるよう、関係団体等とも連携を強化するとともに、コロナ禍でも参加可能な新たな事業の検討・実施も必要であると考えている。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	環境上下水道課が担当課の一翼を担うのは良いですが、社会教育として取り組みがなされていないのは、かなり残念。事業実施上の課題及び今後改善すべき点等が、令和2年度と同じで改善・進展が見えない。コロナ禍で事業を中止したことは理解できるが、コロナ禍でこそ、改善すべき課題に取り組むための検討、準備ができたのではないかと。令和2年度に取り組もうとした「コロナ禍でも参加可能な新たな事業の検討・実施も必要であると考えている。」に対してはどのように評価するのか。コロナ禍で事業の推進は困難だったと思います。落ち着いてきたら再び事業ができるようになることを望む。将来の環境教育の担い手を育てるには、カッコいいお手本の存在が必要。関係団体等との連携強化に期待。